

「自然と環境科2班」活動報告

高槻市の古代遺跡をめぐる

実施日： 令和2年1月17日（金）

集合場所・時間： JR 京都線 摂津富田駅改札口 午前10時

参加人数： 科員22名。実習生3名

●摂津富田駅10:15発の高槻市バスに乗車。10分程乗って上土室で下車。5分歩いて、目的地の**新池ハニワ工場公園**に到着。ここで高槻市観光ボランティア3名の方に説明を受けるため3班に分れる。この場所は奈佐原丘陵部の先端部に位置し、登り窯を設置するのに適した斜面があり、川に近く、粘土や薪などが得られやすい場所とのこと。ここには、ハニワ焼成用の登り窯18基、工房3棟、竪穴式住居14棟があり古墳時代中期（5世紀中ごろ）に築造され、近くにある太田茶白山古墳や今城塚古墳等に供給された。



この遺跡は国内最大級の埴輪製造遺跡。また唯一、埴輪製造施設の全貌が明らかな施設とされている。『日本書紀』欽明天皇23年条に「摂津国三嶋郡植盧新羅人之先祖也」とあり埴輪職人として新羅人が起用されていたことがわかる。地名「土室（はむろ）」からも彼らが村をなしていたことを連想される。

●午前 11:30 に次の目的地、**今城塚古墳**へと徒歩で向かう。30 分ほどで到着。前方部 2 段、後円部 3 段の前方後円墳。2 重の周濠、墳丘斜面に葺石があったことがわかっている。後円部 3 段目が伏見地震(1596 年)により崩落しており詳細は不明。淀川流域の古墳では最大。発掘調査や古墳整備が 2011 年に完了。6 世紀前半の築造とされ、学術的には「日本書紀」が 531 年没とする継体大王の真の陵墓と言われている。陵墓内には約 6000 本



の円筒埴輪と朝顔形埴輪が配列されていた。内堤外側に作られた張り出し部に「埴輪祭祀場」が出土して、そこには前例のない 200 体を超える形象埴輪による祭祀の情景が再現されている。圧巻である。

午後 1 時には昼食を済ませて、古墳の隣にある**高槻市立今城塚古代歴史館(無料)**を見学。発掘され復元された埴輪や石棺(レプリカ)などが展示されている。鉄製の鍬やスコップには驚かされた。発掘品が大量にあり、復元作業がまだ続けられているとのこと。ボランティアガイドの方の丁寧な説明を受けたこともあって 2 時間があっという間に過ぎ、午後 3 時に解散した。

(記録：田中 晃)